

スクールカウンセラー

中谷しいやのつぶやき



2023年夏休み号

石川県立小松高等学校教育相談室

「夏の宿題」



毎年、夏休みになると考えてしまうのが「宿題が終わらなかった問題」の事です。夏休みの宿題が終わらなかった事で、当の生徒さん自身が悩んでしまって登校できなくなったり、親御さんに叱られて生きていくのが辛くなったり、中には生きていく事を止めてしまう事例も報告されています。

…でも「失敗した事のない人」っていると思いますか？

確かに、宿題が終わらなかったのはご本人にとって痛手だし、辛い事でしょう。恥ずかしいと感じる人もおられると思います。でも宿題が出せなかったからと云って、その事でその人(場合によってはご家族も)の日常生活に支障が出るようになったとしたら? 多くの人はまともに生活を送ることが出来なくなっている事になりませんか?

「定められた事をちゃんとやる練習が宿題」です。だからこれは練習なんです。考えてみて欲しいと思います。夏休みの宿題は命を懸けてやらなければならないものではないのでしょうか? 練習だといいました。ですから学校の先生方は(全部やる)「練習として」出しているのです。だから出来なかった時には先生方としても何のお咎めもせずに済ませることは出来ませんが、それでも生徒の命まで奪うような事まではない筈です。全部を終えることが出来なかったら「なぜ終われなかったのか、だったら今はどうすればいいのか、次からはどうしていけばいいのか」を先生方や周りの人たちと知恵を出し合って考える機会にすれば良い(これも練習)と思うんです。

先生方を含め、周りにいる大人たちはいわば「失敗の塊」です。これまでいっぱい失敗してきた人たちです。それでも生き残っています。それでいいのです。みんな失敗の練習をしながら生きてきたのです。だから夏休みの宿題が終わらなかったという失敗を抱えて(何年も経って思い出すと大抵が笑い話になっている筈です)学校に来てください。失敗しない人なんていないのです。日本中に世界中にそんな人がいっぱいいるのです。仕事していても失敗することは(だから大人でも)何度でもあるんです。みんな偉そうな事は云えないんです。大丈夫です。何とかあります。みんな何とかなってきたんです。そんな事の「積み重ね」がその人を深い味わいのある人にしていくくれるのです。一度失敗したら人生全てがゼロ、なんて事はありませんから。

